

関大ORDIST

NI

# 関西大学 先端科学技術推進機構

Organization for Research & Development of Innovative Science & Technology  
(ORDIST)

BE





# Message



関大ORDIST

先端科学技術推進機構 機構長 Director

鶴田 浩章 TSURUTA Hiroaki

## 産学官連携・プロジェクト研究の推進拠点として

先端科学技術推進機構（略称；先端機構、ORDIST）は、学内外研究者・機関との共同研究、プロジェクト研究、および多様な形態の産学官連携活動を目的とした全学組織として、旧・工業技術研究所から出発し半世紀を超える歴史を持ちます。この間、既存の大学内組織を越えたダイナミックな研究チームの形成と、先端的な理工学研究・開発を推進し、社会的ニーズと本学教員のシーズとのマッチングを図る機関としての役割を果たしてまいりました。

先端機構は、4つの研究部門と5つの研究センターから構成されています。研究部門は「新物質・機能素子・生産技術（略称；N）」、「情報・通信・電子（I）」、「生命・人間・ロボティクス（B）」、「環境・エネルギー・社会（E）」からなり、学部、学科の垣根を超えた枠組みの中で自由に研究員が各部門への所属を選択しております。研究センターでは、「工医薬連携研究センター」、「地域再生センター」が長く活動を行っており、総合情報学部研究員をコアとする「社会空間情報科学研究センター」が2016年度に開設されました。また、2016年度に文部科学省による「私立大学研究ブランディング事業」に採択された、「人に届く」関大メディカルポリマー（KUMP）による未来医療の創出プロジェクトを母体とする「関大メディカルポリマー研究センター」が2021年度に開設されました。全学的支援の下に「関大ブランド」の確立に向けた活動を強力に推進しております。さらに、2023年4月より「戦略研究総合センター（2012年度開設）」は、文部科学省の補助事業の仕組みの変更に伴い、機構研究員が実施する様々なプロジェクト研究の推進と各研究の研究基盤を形成させるための仕組みづくりを戦略的に推進する目的で「戦略的研究推進センター」に名称を変更して、新たな活動を開始しています。

今後も先端機構は、各省庁ならびに自治体、学外機関、および企業との連携を一層強化することで、優秀な研究人材を育成し、研究開発を通じた社会貢献に寄与してまいります。学内外を問わず、本機構の積極的なご利用をお待ちしております。

Collaborative Research Center for Engineering, Medicine & Pharmacology (CEMP) and Research Center for Regional Revitalization (RCRR) have been active since the early days of ORDIST. Center for Socio-spatial Information Science (CSSIS) was established in 2016 with a staff of core researchers from the Faculty of Informatics. Furthermore, Kansai University Medical Polymer Research Center (KUMP-RC) opened in 2021. KUMP-RC is a fruitful result of a project to create future medicine with Kansai University Medical Polymer (KUMP) and adopted as the Private University Research Branding Project in 2016, supported by the Ministry of Education, Culture, Sports, Science, and Technology (MEXT). Through this project, we are strongly promoting initiatives to establish the “Kansai University Brand” under university-wide support.

Further, in April 2023, Strategic Research Center for Science & Technology (SRCST; established in 2012) changed its name to Center for Promotion of Strategic Research (CPSR) and began undertaking new activities, in line with changes to the structure of MEXT's grants-in-aid program, strategically for promoting a diverse array of research projects conducted by ORDIST Researchers and the creation of a framework for forming a research platform for each research.

## 組織図

### 先端科学技術推進機構

Organization for Research & Development of Innovative Science & Technology (ORDIST)

#### 研究部門 Research Departments (各部門に研究員が所属)

**N** 新物質・機能素子・生産技術 New material, functional element & production technology **P.3**

**I** 情報・通信・電子 Information, communication & electronics **P.4**

**B** 生命・人間・ロボティクス Biotechnology, life, human sciences & robotics **P.5**

**E** 環境・エネルギー・社会 Environment, energy & society **P.6**

#### 研究センター Research Centers (プロジェクト研究の推進)

戦略的研究推進センター Center for Promotion of Strategic Research **P.7**

医工薬連携研究センター Collaborative Research Center for Engineering, Medicine & Pharmacology **P.8**

地域再生センター Research Center for Regional Revitalization **P.9**

社会空間情報科学研究センター Center for Socio-spatial Information Science **P.10**

関大メディカルポリマー研究センター Kansai University Medical Polymer Research Center **P.11-12**

関西大学科学技術振興会 Associative Society for the Collaboration between Industries & Kansai University **P.15**

## 沿革

関西大学教学理念

### 『学の実化』の具現化のために

2023 年 戦略研究総合センターを戦略的研究推進センターに改編  
2021 年 関大メディカルポリマー研究センター開設  
2016 年 社会空間情報科学研究センター開設  
2014 年 創設 50 周年  
2012 年 戦略研究総合センター開設 (～2022 年度末 改編)  
2009 年 工学研究科が理工学研究科に改編  
2008 年 地域再生センター開設  
社会連携推進本部が社会連携部に改編  
2007 年 工学部がシステム理工学部、環境都市工学部、  
化学生命工学部に改編  
2005 年 社会連携推進本部開設  
2004 年 医工薬連携研究センター開設  
産学連携研究センター開設 (～2011 年度末 事業終了)

2002 年 工業技術研究所が先端科学技術推進機構に改編  
1997 年 学術フロンティア・センター開設  
(～2011 年度末 事業終了)  
1996 年 ハイテク・リサーチ・センター開設  
(～2011 年度末 事業終了)  
1964 年 工業技術研究所開設：産学協同のパイオニアとして  
活動開始  
1962 年 工学研究科設置  
1958 年 工学部設置  
1922 年 大学 (旧制) へ昇格 「学の実化」を提唱  
1886 年 関西法律学校創立

# Research Departments

関大 ORDIST における研究活動は、4 研究部門下で行う「知の統合」を目指した研究会および研究グループによるプロジェクトを主軸として実施しています。研究会での研究を基礎にして、さらに研究内容を発展させ研究グループにおける研究活動を行っています。

## N 研究部門／新物質・機能素子・生産技術 New material, functional element & production technology



研究部門長 Director 化学生命工学部 教授 大洞 康嗣  
Prof. OBORA Yasushi

研究員数 60 名



本研究部門では、分子レベルでの新しい物質の設計と合成、高い機能を有する新材料・新素材の開発、さらには得られた材料・素材と機械との組み合わせ・融合による素子・デバイス・システム等の開発を行います。最終的には、それらを製造・生産・製品化し、社会へ還元することを目指します。本部門の重要なキーワードの一つはナノテクノロジーです。この分野においては、大きなものから微細なものへのトップダウン的アプローチ、原子・分子レベルからの自己組織化によるボトムアップ的アプローチなど、スケールと手法が全く異なる方向からの研究が行われています。こうした多様な視点の発想と手法を、既存の研究分野に囚われることなく有機的に結びつけることで、新たなイノベーションの創出が期待されます。この実現のため、本研究部門では、異分野研究者間での交流・情報交換、知恵と知識の融合による新たな価値の創造を促進するよう努めてゆきます。

Our activities are the design/synthesis of new substances at the molecular level, the development of high-functional new materials, and the development of elements/devices/systems by combining/integrating such new materials with machines. Our ultimate goal is to productize them and benefit the society. One of the keywords of our department is nanotechnology. In this field, research is conducted in significantly different direction in scale and method: for example, top-down approaches from bigger things to finer things, and bottom-up approaches by self-organized of atoms/molecules level. It is expected that new innovations will be created by organically combining ideas and approaches of these various perspectives, beyond the boundaries of existing fields of research. To realize such a goal, in our department, we will promote the creation of new value by implementing interaction and information exchange between researchers in various fields and by integrating wisdom and knowledge.

### キーワード

ナノテクノロジー 分子設計 新材料  
新素材 スマートマテリアル  
マイクロメカトロニクス 機械設計  
製造技術

### 研究グループ

- CPS 実現に向けたバイオインターフェース
- 橋梁・機械設備の健全性モニタリング
- バイオインターフェイス

### 研究会

- wearable device
- サンゴ群集再生技術
- 金属加工プロセス高度化



ORDIST implements its research activities focusing on the projects conducted by study units and research groups in the four research departments aiming for the integration of knowledge. On the basis of the study at the study units, the research groups are developing the research contents to further conduct their activities.

## 研究部門／情報・通信・電子

## Information, communication & electronics



研究部門長 Director システム理工学部 教授 松島 恭治  
Prof. MATSUSHIMA Kyoji

研究員数 59 名



本研究部門は、ICT (Information and Communication Technology) において使用される情報処理や通信システム、それらの実現に必要なソフトウェアおよびハードウェアに関する研究開発を基礎から応用までの広範囲にわたって行うことを目的とする研究部門です。基礎的な領域では、情報処理の基礎となる数学的、理論的な観点からアルゴリズムやシステムの解析を行い、新たな着想に基づく革新的なシステムの追求を目指しています。また、応用に関する研究では、エンジニアリングの観点から効率的で機能性が高く、社会的にも有用な様々な応用システムの研究開発を行います。関連する分野の研究者が、互いに協調しつつ新しい発想に基づくプロジェクトを立案し、実行することで研究を進めていきます。研究者間がお互い刺激しあうことで、より優れた発想の創生が期待できます。そして、その結果として ICT 分野における新たなブレイクスルーにつながる技術開発を目指します。

Our department aims to conduct a wide range of research and development from basics to applications regarding information processing and communications systems used for Information and Communication Technology (ICT) as well as the software and hardware that enable them. In the basic areas, we are pursuing innovative systems based on completely new ideas by analyzing algorithms and systems from the mathematical and theoretical perspectives, which are the foundations of information processing. As for application research, we will conduct research and development for various application systems that are efficient and highly functional in terms of engineering and also useful to society. We will proceed with the research by planning and implementing projects based on mutual collaboration between researchers in related fields and their new approaches. Researchers' inspiration for each other enables us to expect the creation of superior approaches. We will leverage such new approaches to develop technologies that lead to new breakthroughs in the ICT field.

### キーワード

インフォメーションテクノロジー (IT)  
ネットワーク ソフトウェア  
ハードウェア 人工知能 マルチメディア  
システムモデル  
オペレーションズリサーチ (OR)  
複雑系科学 フォトニクス  
オプトエレクトロニクス 数理科学

### 研究グループ

- メタバースによる文化財の発展的活用に関する研究
- 災害にフレキシブルな緊急救命避難支援

### 研究会

- 深層学習とその応用

# Research Departments

## B 研究部門／生命・人間・ロボティクス Biotechnology, life, human sciences & robotics



研究部門長 Director 化学生命工学部 教授 片倉 啓雄  
Prof. KATAKURA Yoshio

研究員数 34 名



生命体は様々な分子が相互作用し、「生きる」という目的をもつ極めて精緻な制御システムであります。生命体やその構成分子がもつ特有の構造や物性、機能を解析し、利用します。その一方で、居住空間や環境が人間の生活や精神的活動にどのように影響するかを解析するとともに、視知覚情報処理やロボットなどに関連付け、新たな機能の開発・設計・応用を図ります。生命と人間に関わる諸問題を物理的、化学的、生物学的に、また社会科学、人文科学との学際的アプローチによって解決し、その成果を健康・医療・福祉・スポーツおよび種々の産業に活かすべく、多彩な研究開発活動を展開しています。

A living organism is an extremely elaborate control system having the purpose of living, with various molecules interacting with each other. Our department analyzes and utilizes the unique structures, physical properties, and functions of living organisms and their constituent molecules. Meanwhile, we analyze how living spaces and environments affect human life and mental activities, and make efforts to develop, design, and use new functions in association with audio-visual information processing and robots. Our department solves various problems related to human life and human beings by physical/chemical/biological approaches, sometimes using interdisciplinary perspectives from the social sciences and the humanities. This means we are working on a variety of research and development activities and thus leverage the outcomes for health, medical care, welfare, sports, and various industries.

### キーワード

バイオテクノロジー 遺伝子工学  
医療・介護・福祉 健康科学  
生体医工学 人工臓器 医用画像  
再生医工学 スマート構造システム  
バイオメカニクス バイオミメティクス  
スポーツ工学 ロボティクス  
天然物化学 生物化学工学  
医薬品工学 天然素材工学  
食品化学 エピジェネティクス  
微生物制御 環境浄化 創薬化学  
酵素工学

### 研究グループ

● マイクロバイオーム

### 研究会

● 流体科学





## E 研究部門／環境・エネルギー・社会 Environment, energy & society



研究部門長 Director 環境都市工学部 教授 田中 俊輔  
Prof. TANAKA Shunsuke

研究員数 83 名



本研究部門は、地球環境の保全、持続可能社会の実現を目指して、省エネルギープロセスや装置、燃料電池やリチウム電池などのエネルギー関連研究、環境調和型生産技術、CO<sub>2</sub> 対策技術、ビール粕や醤油粕などの食品廃棄物の有効利用のようなりサイクル技術の研究開発から、都市の再生、人間・環境、安全工学、社会基盤および人工基盤施設の維持管理、社会・都市の防災・減災システム、技術倫理等までの多様で幅広い研究対象を持っています。登録研究員の専門分野は理工系3学部のほぼ全学科および理工学研究科にわたり、さらに総合情報学部や社会安全学部におよんでいます。

Aiming at the protection of the global environment and the realization at a sustainable society, our activities cover a diverse and wide range of researches. Energy-related technologies (such as research on energy-saving processes and equipment, fuel cells, and lithium batteries), environmentally-friendly production technologies, CO<sub>2</sub> control technologies, and recycling technologies (such as the effective use of food waste, brewer's grains and soy sauce cake). In addition, researches like urban renaissances, human-environment relation, safety engineering, the maintenance and management of social and artificial infrastructure facilities, disaster prevention and mitigation systems for society and cities, and engineering ethics are also our department's mission. Our registered researchers' fields cover almost all fields of the study of the departments of three faculties for science and technology and the Graduate School of Science and Engineering, and even the Faculty of Informatics and the Faculty of Societal Safety Sciences.

### キーワード

リサイクル技術 エコロジー 地球環境  
持続可能社会 新エネルギー  
自然エネルギー 電磁環境  
パワーマネジメント 社会基盤工学  
都市問題 防災・減災 安全工学  
工学(技術者)倫理

### 研究グループ

- インフラマネジメント
- 気候変動に適応した健康まちづくり
- 人間・環境系の生体応答・感覚モデル
- 社会安全イノベーションに貢献する大阪梅田におけるネットワークハブ構築
- 人工物・システムの設計・製造・運用における暗黙知

### 研究会

- 元素循環技術

# Research Centers

先端科学技術に関するプロジェクト研究を遂行するため、5つの研究センターを設置し、活発な研究活動を推進しています。

## 戦略的研究推進センター

## Center for Promotion of Strategic Research (CPSR)



センター長 Director 化学生命工学部 教授 住吉 孝明 (先端科学技術推進機構 副機構長)  
Prof. SUMIYOSHI Takaaki

本センターは、2012年に設立された戦略研究総合センターを、設立後10年の節目を迎えた2023年4月に、戦略的研究推進センターとして改組して成立しました。前身の戦略研究総合センターは、文部科学省による私立大学戦略的研究基盤形成支援事業を含む大型受託研究、学外共同研究を中長期的に展開し、先端科学技術推進機構における新たな研究基盤を生み出す総合センターの役割を果たしてきました。改組した本センターは、旧センターの設立趣旨を継承し、先端科学技術推進機構の研究員が実施する既存プロジェクト研究を推進するとともに、産学官の連携をサポートする仕組みを戦略的に構築し、継続的に新プロジェクトを生み出す役割を果たしてまいります。

Strategic Research Center for Science & Technology (SRCST), established in 2012, was reorganized as Center for Promotion of Strategic Research (CPSR) on its 10th year in April of 2023.

The former SRCST had been conducting large-scale delegated research projects, including projects for the MEXT-Supported Program for the Strategic Research Foundation at Private Universities as well as external collaborative research over the medium-and long-term while playing a role as a comprehensive center that provided a new research platform at ORDIST.

While inheriting the spirit behind the establishment of SRCST, the new CPSR will promote existing research projects conducted by ORDIST researchers while at the same time strategically building a framework to support collaboration between industries, academia, and government continuously fulfill the role of producing new research.

### 研究グループ・研究会一覧 (2024年度)

	プロジェクト名	研究代表者	研究期間
研究グループ	CPS 実現に向けたバイオインターフェース	システム理工学部 伊藤 健 教授	2023 年度～2025 年度
	N 橋梁・機械設備の健全性モニタリング	システム理工学部 小金沢 新治 教授	2024 年度～2026 年度
	バイオインターフェース	化学生命工学部 岩崎 泰彦 教授	2024 年度～2026 年度
	I メタバースによる文化財の発展的活用に関する研究	環境都市工学部 安室 喜弘 教授	2023 年度～2025 年度
	災害にフレキシブルな緊急救命避難支援	システム理工学部 和田 友孝 教授	2024 年度～2026 年度
	B マイクロバイオーム	化学生命工学部 福永 健治 教授	2023 年度～2025 年度
	インフラマネジメント	環境都市工学部 尹 禮分 教授	2022 年度～2024 年度
	気候変動に適応した健康まちづくり	環境都市工学部 尾崎 平 教授	2022 年度～2024 年度
	E 人間・環境系の生体応答・感覚モデル	環境都市工学部 都築 和代 教授	2023 年度～2025 年度
	社会安全イノベーションに貢献する大阪梅田におけるネットワークハブ構築	社会安全学部 奥村 与志弘 教授	2023 年度～2025 年度
研究会	人工物・システムの設計・製造・運用における暗黙知	社会安全学部 細川 茂雄 教授	2024 年度～2026 年度
	N wearable device	システム理工学部 田實 佳郎 教授	2020 年度～2024 年度
	サンゴ群集再生技術	化学生命工学部 上田 正人 教授	2020 年度～2024 年度
	金属加工プロセス高度化	化学生命工学部 丸山 徹 教授	2023 年度～2025 年度
	I 深層学習とその応用	システム理工学部 棟安 実治 教授	2023 年度～2025 年度
	B 流体科学	システム理工学部 板野 智昭 教授	2024 年度～2028 年度
	E 元素循環技術	環境都市工学部 田中 俊輔 教授	2023 年度～2027 年度



In order to carry out research projects on innovative science and technology, we have established five research centers to promote aggressive research activities.

## 医工薬連携研究センター

## Collaborative Research Center for Engineering, Medicine & Pharmacology (CEMP)



センター長 Director 化学生命工学部 教授 平野 義明  
Prof. HIRANO Yoshiaki

現在我が国では、医療用機器・器具の多くを輸入に頼っており、医療費総額を抑えつつ、医師と患者双方の肉体的・経済的負担を軽減し、各自が安心して健やかな生活を送れる社会を実現することが望まれています。そのためには、国際競争力を備えた次世代の先端医療技術や機器を開発する医学・薬学と工学とのさらなる連携が必要です。本学は、近隣大学の医・薬学部、医系研究機関、医療機器メーカー等との共同研究・プロジェクトなどを実施し、様々な成果を生み出してきました。

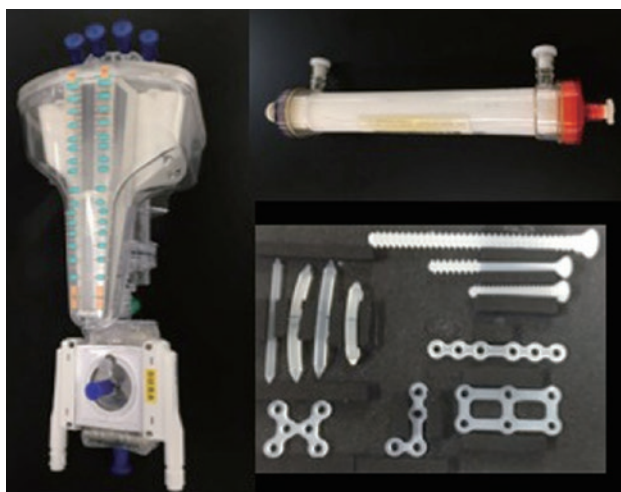
本センターはこうした医工薬連携研究をより活発に推進するために設立され、その中核的役割を果たしてきました。そして共同研究による成果を、新しい治療法や医療機器システム等の形で、ベンチャー企業や医療機器メーカーを通じて実用化し、社会貢献を果たすことを最終的な目標としています。

Today in Japan, we rely on imports for a lot of medical equipment and instruments, and it is hoped that we can realize a society where everyone can lead a safe and healthy life and reduce the physical and economic burdens of both physicians and patients while holding total medical expenses down. Realizing such a society requires further collaboration between medical science / pharmaceutical science and engineering to develop next-generation advanced medical technologies and equipment that can be competitive in the global market. Kansai University has generated various outcomes by conducting joint research/projects and the like with its neighbors such as universities' faculties of medicine and pharmaceutical sciences, medicine-related research institutions, and medical devices manufacturers.

CEMP was established to proactively promote such medical-engineering-pharmaceutical collaborative research and has played a core role. Our ultimate goal is to contribute to the society by commercializing the outcomes from joint research as new methods of treatment, medical device systems, and the like, working with venture capital firms and medical devices manufacturers.

本センターでは、2016 年度より医工薬連携研究費を設け、次の研究活動を支援しています。

- 抗がん活性を目指した新規ルテニウム錯体の開発  
2023～2024 年度（研究代表者：化学生命工学部 石田 斉 教授）
- 概日リズム解析に基づいた光免疫療法の最適化  
2024～2025 年度（研究代表者：化学生命工学部 山口 賀章 准教授）



左：人工肺ユニット、右上：人工透析用ダイヤライザー  
右下：生分解性骨固定材

# Research Centers

## 地域再生センター

## Research Center for Regional Revitalization (RCRR)



センター長 Director 環境都市工学部 教授 北詰 恵一  
Prof. KITAZUME Keiichi



地域コミュニティの持続的な再生に向けた取組を、集住環境の視点から、地域住民や NPO、行政、企業などのさまざまなジャンルの人々と協働で行い、共創により価値を生み出す研究および実践的活動を継続して行っています。建築・土木を中心とした工学の領域から、公共政策、公共経済学などの社会科学の分野、地理学などの人文学の分野を融合・創造しながら、地域再生をデザインしています。本センター設立時における関西大学 TAFS 佐治スタジオ（兵庫県人間サイズのまちづくり賞、国土交通省まちづくり功労者表彰）での活動や文部科学省私立大学戦略的研究基盤形成支援事業「集合住宅“団地”の再編（再生・更新）手法に関する技術開発研究」（2016 年度都市住宅学会賞・業績賞）の成果をさらに発展させ、実践エリアを拡大するとともに、共創のあり方や方法論研究を深めることによって、地域の人々と共に歩む再生の活動を進めていきます。

Research Center for Regional Revitalization (RCRR) collaborates with local residents and people in various sectors, including NPOs, national and local administrative agencies, and companies, to work toward the sustainable regeneration of local communities from the perspective of residential environmental improvements. RCRR continues to conduct research and practical activities that create value through co-creation. It is designing regional revitalization while fusing and creating engineering fields centered on construction and civil engineering, social science fields, including public policy and public economics, and humanities fields, including geography. At the time of the establishment, RCRR's achievements are exemplified by the activities of the Kansai University TAFS (Tamba Aogaki Field Studio) Saji Studio\*, which received the Hyogo Prefecture Human-Sized Town Development Award and the Award for Distinguished Service for Town Development from the Ministry of Land, Infrastructure, Transport and Tourism. Additionally, RCRR's project under the theme of Technology Development Research on Approaches to the Reorganization (Renaissance/Rebuilding) of Housing Complex Danchi\*\* resulted in the reception of the Achievement Award from the Association of Urban Housing Sciences of FY 2016 under the Supported Program for the Strategic Research Foundation at Private Universities of the Ministry of Education, Culture, Sports, Science and Technology. It will further develop the results of these achievements. By expanding the practice area and deepening research on co-creation and methodologies, RCRR will promote revitalization activities in cooperation with local people.

\* Awarded "Hyogo Prefecture, Human-Sized Town Development Award" and "Award for Distinguished Service for Town Development from the Ministry of Land, Infrastructure, Transport and Tourism"

\*\*Awarded "Achievement Award from the Association of Urban Housing Sciences of FY 2016"



山頂から見た兵庫県佐治のまち

# 社会空間情報科学研究センター Center for Socio-spatial Information Science (CSSIS)



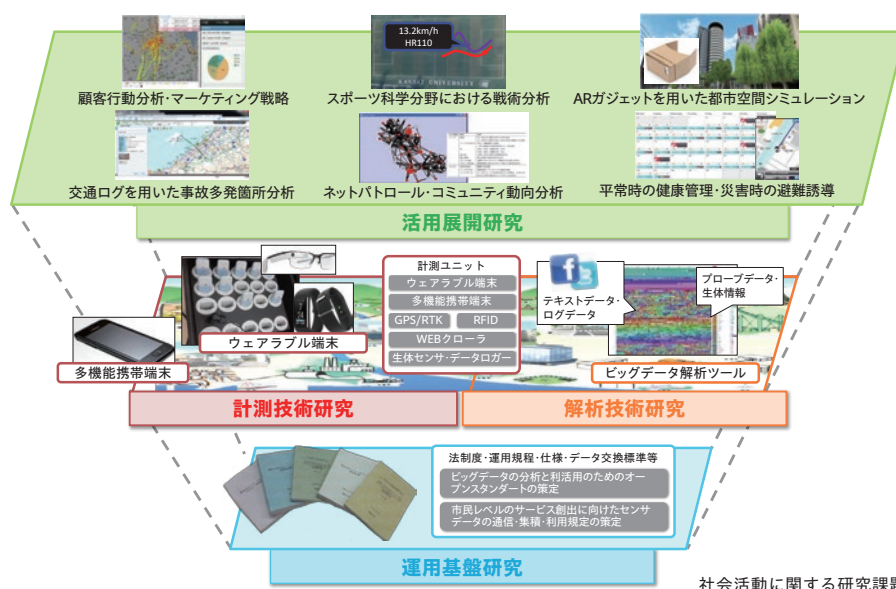
センター長 Director 総合情報学部 教授 田中 成典  
Prof. TANAKA Shigenori

高性能な計測機器及びその解析技術の発展に伴い、社会・空間に纏わるデータ、情報、そして新たな気づき知識の利活用に関心が高まっています。このような背景の下、社会基盤施設の維持管理に係る技術や被災・防災分野で有用な「社会基盤」に係る技術と、日々の生活やスポーツ分野での健康管理、状況判断や戦略分析等で有用な「社会活動」に係る技術について、横断的かつ包括的に取り組むべく、「社会空間情報科学研究センター」を設立しました。

本研究センターでは、社会空間情報に関する計測・解析技術を多様な分野に適用して新たな気づきとなる社会空間情報サービスを開発するとともに、研究成果を広く普及させるため、学内外の研究者や民間企業、公的機関等と広く協力体制を築き、産学官連携活動を強力に推進します。

With the development of highly sophisticated measuring instruments and associated analysis technologies, applications using data, information, and new findings related to society and spaces are attracting growing attention. Under such circumstances, CSSIS was established in order to work on research on technologies related to *social infrastructure* that are useful in the field of the maintenance of social infrastructures and disaster prevention/disaster mitigation; and technologies related to *social activities* that are useful for health management, assessments of situations, strategic analysis, and other situations in everyday life and the area of sports, in a cross-sectional and comprehensive manner.

CSSIS develops socio-spatial information services to provide new findings by applying socio-spatial information-related measurement and analysis technologies to various fields. Moreover, in order to broadly spread the outcomes, we strongly promote industry-academia-government coordination by establishing a cooperative system with a wide range of people and institutions, including researchers inside and outside the university and people from private enterprises and public agencies.

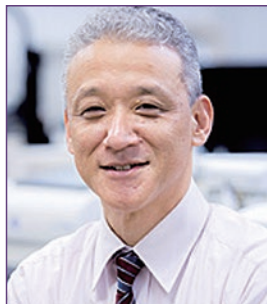




# Research Centers

## 関大メディカルポリマー研究センター

## Kansai University Medical Polymer Research Center (KUMP-RC)



関西大学研究ブランディング事業

『人に届く』関大メディカルポリマーによる未来医療の創出プロジェクト

センター長 Director 化学生命工学部 教授 大矢 裕一

Prof. OHYA Yuichi

『人に届く』関大メディカルポリマーによる未来医療の創出プロジェクトは、2016（平成 28）年度に文部科学省の私立大学研究ブランディング事業において、タイプ B「先端的・学際的な研究拠点の整備により、全国的あるいは国際的な経済・社会の発展、科学技術の進展に寄与する取組」として採択されました。同省の「学長のリーダーシップの下、大学の特色ある研究を基軸として、全学的な独自色を大きく打ち出す取組を行う私立大学の機能強化を促進する」という理念を遂行するため、同プロジェクトのメンバーが企業等との共同研究や特許の獲得等を着実に増やししながら、研究成果を国内外に向けて積極的に発信してまいりました。5 年間の取組のなかで、大阪医科薬科大学の研究者と連携を深め、同大学の臨床医との連携による人的ネットワークが構築できました。

事業は 2020 年度末に 5 年間の節目を迎え、その存在と活動がより顕在化されるよう、2021 年 4 月から先端科学技術推進機構直下の「関大メディカルポリマー研究センター」として活動を継続していくこととなりました。本センターでは、本学の材料化学者や機械工学者だけでなく、学外の医療関係者が研究員として活動できるプラットフォームを提供し、臨床研究や実用化に向けて、これまで以上に医工連携研究を発展させていきます。特に、大阪医科薬科大学との共同研究を一層促進させ、研究活動だけでなく人材育成の点でも実績を挙げることで、連携の強化を目指します。

関大メディカルポリマー研究センターでは、未来医療を創出することを目的とした長期間にわたる継続的な取り組みを続け、研究の発展を通じて本学の研究ブランド力向上をめざします。

Kansai University Smart Materials for Advanced and Reliable Therapeutics (KU-SMART) Project was adopted as FY 2016 Private University Research Branding Project (Type B\*), supported by the Ministry of Education, Culture, Sports, Science and Technology. The Ministry's philosophy of this project was "to promote the enhancement of the functions of private universities that make efforts bringing out the feature of the entire university based on its unique researches under the leadership of the president." To fulfill this philosophy, our project members have proactively disseminated their research outcomes to Japan and the world while increasing the number of joint research with companies and also patents acquired. Through this project, we have deepened cooperation with researchers from Osaka Medical and Pharmaceutical University and built a rich network through collaboration with the clinicians.

The project reached a milestone of five years at the end of FY 2020. Members are continuing their researches at "Kansai University Medical Polymer Research Center (KUMP-RC)" established in 2021 directly under ORDIST, so that its presence and activities will become more apparent. This center provides a platform where our material chemists, mechanical engineers, and medical personnel outside the university can work together. Moreover, we will conduct more medical-engineering collaborative research for clinical research and practical application. In particular, we will further promote joint research with Osaka Medical and Pharmaceutical University aiming to strengthen our cooperation with them by delivering outcomes in terms of not only research activities but also human resource development.

KUMP-RC will maintain its long-term continuous efforts in order to create future medical care, aiming to improve the research brand of the university through the development of research.

\* Type B: "nationwide or international efforts that contribute to the development of the economy/society and to progress in science and technology through the enhancement of an advanced and interdisciplinary research base"





## 3つのMで届く 関大メディカルポリマー

詳しくは



関大メディカルポリマー (Kansai University Medical Polymer) は、関西大学で開発された医療用高分子材料の総称です。臨床医からの提案（ニーズ）に基づき、材料・システムを設計・提供し、デバイス（製品）を構築し、それを臨床医の目で検証し、臨床の現場に届く、国際競争力のある日本発の新しい医療器材を開発することを目指しています。臨床医（Medical Doctors）として大阪医科薬科大学の先生方、機械工学者（Mechanical Engineers）として本学機械工学科の研究者、材料化学者（Material Chemists）として本学化学・物質工学科の研究者との3つのMで、真の医工薬連携を実現します。

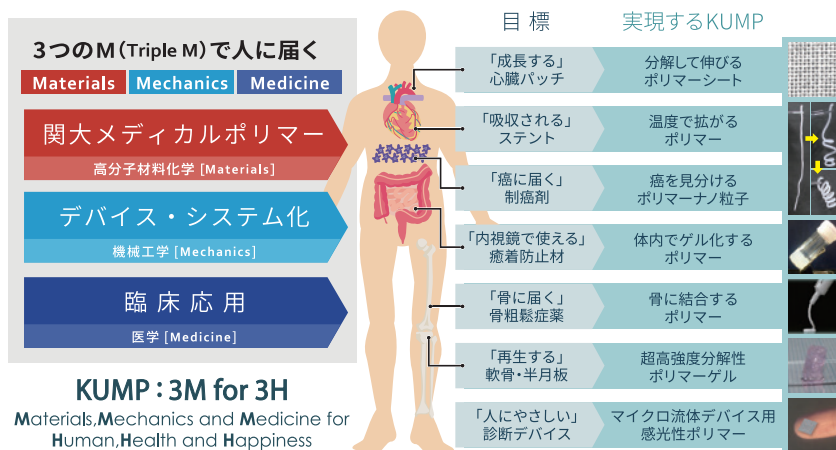
## Reach People with Triple M

Kansai University Medical Polymer (KUMP) is a general term for polymeric medical materials developed at Kansai University. We aim to become the new base in Japan for research and development for competitive medical devices in the global market. To put KUMP into practical use and make it available at clinical sites, we will design/provide materials/systems, build devices according to the suggestions of medical doctors and ask them to verify the products. We will realize true medical-engineering-pharmacy cooperation together with what we call Triple M: Medical doctors (doctors in Osaka Medical and Pharmaceutical University), Mechanical engineers (professors in our Department of Mechanical Engineering), and Material chemists (professors in our Department of Chemistry and Materials Engineering).

### 研究体制



### KU-SMART プロジェクト概略図



# Research Facilities

先端科学技術推進機構の研究施設をご紹介します。

## ハイテク・リサーチ・コア

### High Technology Research Core (HRC)



当施設は、文部省（当時）による私立大学学術研究高度化推進事業（ハイテク・リサーチ・センター整備事業）の支援を受け、1996 年度に建設されました。

現在は研究の更なる深化、高度化を目指し、大型の受託研究、学外共同研究等にも活用の枠を広げ、企業との共同研究の場となる等、研究活動の拠点として幅広く利用されています。

This facility was built in FY 1996 with financial assistance provided for the Program for Promoting the Advancement of Academic Research at Private Universities (High-Tech Research Center Project) by the former Ministry of Education, Science and Culture.

Today, this facility is broadly utilized as a base for research activities, in order to further deepen and advance our research for broader purposes, such as large-scale contracted research projects and joint research with external researchers, providing opportunities for joint research with companies.

## 月が丘住宅

### Tsukigaoka Residence



文部科学省私立大学学術研究高度化推進事業 学術フロンティア推進事業の一翼を担う研究プロジェクトの施設として 2007 年に設置されました。内外の研究機関と共同研究を通して QOL (Quality of Life, Quality of Living) に係る改善・提案策を実証するための実験住宅として利用されています。

This facility was established in 2007 as a facility to be utilized in a research project. It was part of the Academic Frontier Project for Promoting the Advancement of Academic Research at Private Universities by MEXT. This facility is utilized as experimental residence designed to demonstrate measures for improvements and proposed measures related to QOL (quality of life, or quality of living) through joint research with internal and external research institutions.





## 学術フロンティア・コア Frontier Sciences Core (FSC)



当施設は、文部省（当時）による私立大学学術研究高度化推進事業（学術フロンティア推進事業）の支援を受け、高度な学術研究を推進するために設置されました。

現在は研究施設として大型の受託研究、学外共同研究等を受入れ、企業との共同研究の場となる等、引き続き研究活動の拠点としての役割を担っています。

This facility was established with financial assistance provided for the Program of Promoting the Advancement of Academic Research at Private Universities (Academic Frontier Project) by the former Ministry of Education, Science and Culture.

Today, this facility continues to serve as a base for research activities. For example, large-scale delegated research projects, and joint research with external researchers are conducted at this research facility, providing opportunities for joint research with companies.

## 関西大学先端科学技術シンポジウム

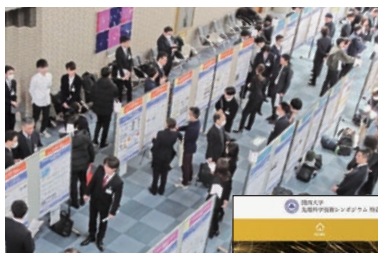
# Kansai University Symposium on Advanced Science & Technology

関西大学先端科学技術推進機構では、本機構内で取り組む研究の一年間の成果を取りまとめ、広く社会、企業、産業界に発信する場として、シンポジウムを開催しております。

本年度も、2025年1月下旬に「第29回関西大学先端科学技術シンポジウム」を開催予定です。多くの方々の参加をお待ちしております。

ORDIST compiles its annual outcomes of the research and holds a symposium to disseminate the outcomes broadly to society, companies, and the industrial sector.

We are to hold the 29<sup>th</sup> Kansai University Symposium on Advanced Science & Technology in late January, 2025. We sincerely look forward to your attendance.



開催予定

第29回

関西大学先端科学技術シンポジウム

開催日 2025年1月下旬

場 所 関西大学 千里山キャンパス

※参加申込みは12月上旬より、シンポジウム特設サイトにて承ります。



## 関西大学科学技術振興会

# Associative Society for the Collaboration between Industries & Kansai University

関西大学における知的資産を広く産業界に紹介し、新産業創出等科学技術の発展に寄与すること並びに先端機構研究員と会員および会員相互間の連携により、先端機構および会員の発展向上を図ることを目的として1965年5月に設立されました。

### 事業内容

- 講演会、研究会および見学会などの企画・開催
- 会員相互の情報の交流および先端機構等の情報提供
- 新製品・新事業の共同研究についての意見具申および評価
- 先端機構の産学官連携事業（海外も含む）についての意見具申および評価
- 助成事業（共同研究、起業支援など）の企画・実施 など

### 会員特典

- 大学発の先端技術の紹介、教員との個別会合のアレンジ
- 会員企業の新事業を奨励し、先端機構への共同研究、委託研究への支援
- 研究会、イベント、シンポジウム、セミナーなどへの参加 など

### 会 費

法人会員・個人会員 1口 20,000 円（年額）  
※入会申込は随時受付いたしております。



## 関西大学科学技術振興会

〒564-8680

大阪府吹田市山手町3丁目3番35号

関西大学先端科学技術推進機構内

TEL. 06 (6368) 1178

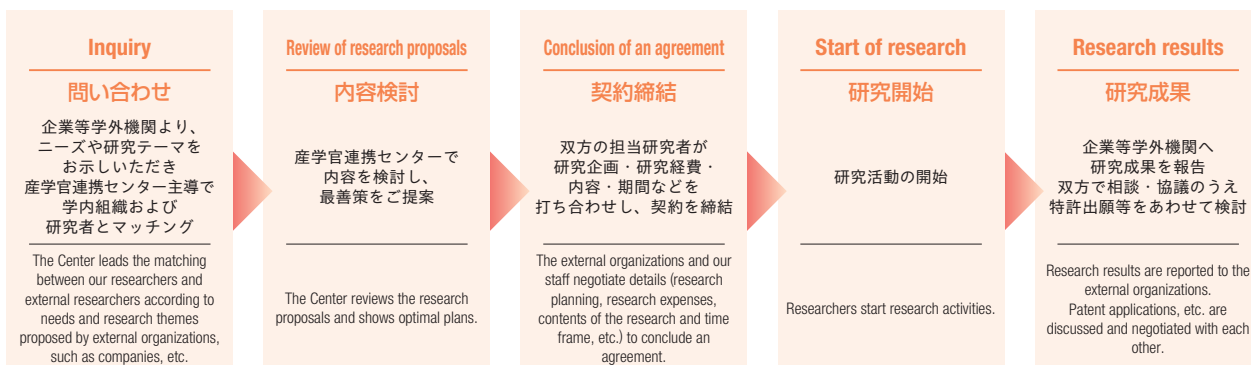
FAX. 06 (6368) 0080





当センターは、産学官連携活動の一環として、受託研究、共同研究、技術相談、学術指導、試験・分析申込等の窓口を担っております。関西大学との連携にご興味をお持ちいただけましたら、右上のQRコードからHPへアクセスの上、メールフォームからお問い合わせください。

### 受託・共同研究の流れ



- 研究経費…納入された金額から10%の一般管理費を除いた額が研究費になります。
- 知的財産権…受託・共同研究で得られた知的財産権は、原則として委託者と共有になります。
- Research expenses: 10% of the total amount paid shall be deducted as general and administrative expenses, and the rest shall be allocated to research expenses.
- Intellectual property rights: In principle, intellectual property rights obtained through delegated research and joint research shall be co-owned with entrusting entities.



イノベーション創生センターは、本学創立130周年記念事業の大きな柱の一つとして、2016年に設置されました。千里山キャンパスの中央に位置し、総合大学の利点を活かした人文・社会・自然科学系の学問分野を融合し、産学官連携活動の飛躍的な活性化となる研究活動の支援と関大発ベンチャーの支援、人材育成などによる本格的なイノベーション創出の拠点として活動しています。また学生向けにアントレプレナーシップに関するセミナー等を開催しています。

KU-CIC was established in 2016 as a key part of a program commemorating the 130th anniversary of Kansai University's founding.

Situated in the heart of the Senriyama Campus, the facility strives to foster true innovation by taking advantage of the University's broad range of academic programs to combine the humanities, social sciences, and natural sciences in the service of inspiring research activities that will ignite Industry-academia-government collaboration; supporting ventures by Kansai University students, faculty members and researchers; and fostering human resources development.



イノベーション創生センター  
Kansai University Center for Innovation & Creativity (KU-CIC)

### 施設概要 / Facilities

#### 実験・研究エリア (B1階・3階・4階) / Experiment / Research Area (B1, 3F, 4F)

企業との共同研究、企業間連携を行う実験・研究エリア。最先端の研究装置等も設置し、産学官連携の新たな環境を創生します。

This area facilitates joint research and partnerships with companies. It hosts a collection of state-of-the-art equipment to facilitate joint research.

#### 対話スペース・ベンチャーオフィス (2階) / T-Space, Venture offices (2F)

関大発ベンチャーの拠点として、ビジネスモデル構築や起業および起業準備のための対話スペース及びレンタルオフィスです。

KU-CIC leases office space for startup preparations and other activities as part of its support for ventures by Kansai University students, faculty members and researchers.

#### カフェスペース (1階) / Café Space (1F)

自由な発想を生み出す、共有のリラックススペース。セミナーや交流会の場としても利用しています。

The café space is designed to foster out-of-the box thinking.



# Coordinators

関西大学では、産業界への技術移転等を推進するコーディネーターが多数所属しています。本学との連携にご興味をおもちの方は、ぜひ本学のコーディネーターへご相談ください。



[先端科学技術推進機構 I / E 研究部門]

**池谷 章** IKETANI Akira

技術移転活動、リエゾン活動

専門分野：電子・通信・情報・ソフトウェア

電話 06-6368-1492

E-mail iktn-cd@jm.kansai-u.ac.jp



[先端科学技術推進機構 N / B 研究部門]

**巽 俊二** TATSUMI Shunji

技術移転活動、リエゾン活動

専門分野：新物質、機能素子、生産技術、ロボティクス

電話 06-6368-0664

E-mail x997995@jm.kansai-u.ac.jp



[先端科学技術推進機構 I / E 研究部門]

**藤野 千代** FUJINO Chiyo

技術移転活動、リエゾン活動

専門分野：情報・通信・環境・エネルギー、  
材料工学

電話 06-6368-1044

E-mail chiyo-cd@jm.kansai-u.ac.jp



[先端科学技術推進機構  
医工薬連携／ライフサイエンス]

**福永 真一** FUKUNAGA Shinichi

技術移転活動、リエゾン活動

専門分野：医工連携、天然・合成高分子、  
ライフサイエンス

電話 06-6368-3119

E-mail x922176@jm.kansai-u.ac.jp

Kansai University has coordinators who promote technology transfer to the industrial sector. Please contact our coordinators if you are interested in cooperating with our university.



〔先端科学技術推進機構 N／E 研究部門〕

**山本 道治** YAMAMOTO Michiharu

技術移転活動、リエゾン活動

専門分野：物質、化学、環境エネルギー

電話 06-6368-3120

E-mail michiyama@jm.kansai-u.ac.jp



〔知財〕

**井上 一生** INOUE Kazuo

知的財産の権利化活動、技術移転活動、リエゾン活動

専門分野：知的財産、特許翻訳、電気電子工学、  
物理学、情報工学

電話 06-6368-1408

E-mail kinoue@jm.kansai-u.ac.jp



〔知財〕

**高間 利夫** TAKAMA Toshio

特許化活動、技術移転活動、リエゾン活動

専門分野：特許・実用新案・意匠・商標の各種書式手続、  
特許調査、ライフサイエンス

電話 06-6368-1783

E-mail takama-t@jm.kansai-u.ac.jp



〔社会連携〕

**松井 由樹** MATSUI Yuki

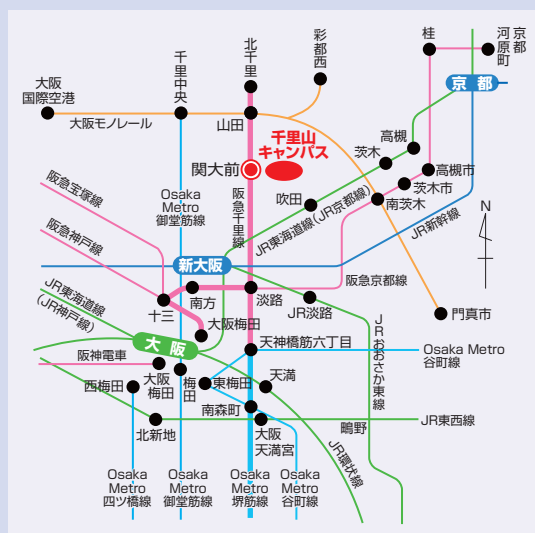
技術移転活動、リエゾン活動

専門分野：経営、マーケティング、新商品開発、  
新事業開発

電話 06-6368-1560

E-mail yuki-matui@jm.kansai-u.ac.jp

# 千里山キャンパス マップ Senriyama Campus Map



## 関西大学

関西大学 先端科学技術推進機構

KANSAI UNIVERSITY

Organization for Research & Development of  
Innovative Science & Technology (ORDIST)

(阪急大阪梅田駅より約20分、JR新大阪駅より約25分、阪急千里線関大前駅下車 徒歩約10分)

〒564-8680 大阪府吹田市山手町3丁目3番35号

TEL.06(6368)1178 FAX.06(6368)0080

E-mail: sentan@ml.kandai.jp

ウェブサイト: www.kansai-u.ac.jp/ordist/

